



保護者の感想から（一部抜粋）

最終審査を進めると聞いた時は、嬉しさもあり、受験と両立の不安もありましたが、もともと朝ご飯に毎日のように卵焼きを焼いてくれていたので、その成果を出せば大丈夫！と短い時間で練習をしました。メニューの中で、家族それぞれ、お気に入りのおかずがあり、「また作って。」と頼まれ、嬉しそうに作る本人の姿が印象的でした。栄養や野菜の下ごしらえについて調べたり、調理手順を考えたりと、とても勉強になり、親としても子どもの成長を感じました。貴重な経験となり、ありがたい気持ちでいっぱいです。

夏休みに挑戦した「ふくしまっ子ごはんコンテスト」が最終審査に残り、その審査では、一人で調理から盛り付けまで行うと聞き、最初は、「一人で全部出来るかな・・」と少し不安な様でした。ですが、担任の先生をはじめ、クラスの皆さんに、とても応援してくださり、一気に不安が吹き飛んだようで、「選ばれたのだから頑張る。」と毎日練習してきました。娘の作った料理を「おいしい～」と食べる家族、それを嬉しそうに見ている娘、その姿を見て、このような貴重な機会を与えてくださった事、とてもありがとうございました。このコンテストに向けての調理練習を通じて、段取り、手順など自身で考え、行動する姿にとても成長を感じました。

娘たちには、常に食べてもらう人のことを考えて作るようにと話しています。おいしいものを食べて怒る人はいませんからね。将来、みんなを笑顔にできる食事を作ってほしいと思っております。

家族や先生の後押しもあり、本人も選ばれた責任を感じたのか、やる気になり、練習を始めました。それからは、スポ少などもあり、忙しい身ですが、以前よりももっと食事の手伝いをしてくれるようになり、料理を少し楽しく感じられるようになったと思います。これからもっと料理に自信をもち、自分らしい料理を作つて欲しいです。

普段はあまり食に関心がない方でしたが、このコンテストを通じて、自分がいつも食べている料理や食材について考える良いきっかけになったようです。最終審査では、制限時間が1時間と聞いて、時間内に手際良く料理するために、毎日練習をして、沢山の失敗を繰り返しました。本番では無事に料理を仕上げることが出来たので、少し自信がついたようです。今回の料理を通じて、色々な事を学べたと思うので、今後に生かしていけたらと思います。

学校の授業で郷土について学ぶ時間があり、色々な分野で郷土にふれたようです。食についていえば、食材の産地は、最初は国産か輸入物か、から始まり、県内産そして会津産と、細かく知るきっかけにもなったようです。給食においても地産地消に取り込んでくださり、関心をもつことができたのだと思います。また、地産地消は、レストラン、商店等に広がり子どもも色々な場所で接してきました。その時々の食の体験をふまえて、今回のメニューができあがりました。地元産にこだわると、物によっては、値段が高価になってしまう物もありますが、その分、家で採れる野菜は大切に使い切るということも学んできました。調理技術はまだまだですが、出来上がった料理を家族のみんながおいしそうに食べている様子を見て、とても嬉しそうで、料理する楽しみをわかってくれるだけで親としては満足です。

1年生の時から、毎年挑戦しているこのコンテストで、今回は実技審査まで残って、本人もとても喜んでいました。親の私もとても嬉しく、二人で喜びましたが、同じくらい不安もありました。毎日、陸上やスポ少の練習をこなしながらの料理練習。泣きながら、自分なりに工夫して頑張りました。包丁をにぎり、真剣に料理する姿にとても成長を感じました。料理を作る楽しさをこれからも忘れずにいてほしいです。

とても偏食がある娘でしたが「自分で作った朝ご飯」をきっかけに食材のおいしさを知り、苦手だった夏野菜を一気に克服することができました。おばあちゃんから学ぶことも多く、食を通じて広い世代で家族の絆も深まったように思います。コンテストを機に、食育の一環としても親子、家族で楽しい時間を作ることが出来たことに感謝いたします。

私が日中仕事でないため、夏休み中のお昼ご飯でも電子レンジを利用して、うどんを作ったり、親子丼を作ったり、毎日自分で調理を続けました。今回のコンテストを経験することで、食事作りは非日常の事ではなく、毎日の日常でやり続ける大切さだと理解してくれたらいいなと思います。親としても子どもの成長を感じられて、嬉しく思います。ありがとうございます。

まさか、最終審査まで残ると思っていたいなかつたので、先生から伝えられ驚いていましたが、自分から何度も挑戦し頑張って練習している姿に成長を感じました。家族から「うまい。」の声を聞き、「よし、頑張る。」とやる気になり、当日を迎えるました。緊張した様子も見られましたが、昨年よりもスムーズにできたように思います。

中学校の部のコンテストに出場が決まって、何回か練習したようですが、すっかり料理が早くできるようになり、家の中でもはりきっていました。コンテストは1時間ですが、審査も厳しく、入賞される方は、きっと食技について立派な方だと想像します。大変良い事業なので、今後も益々発展されるよう祈ります。

今回、お弁当に使わせていただいた材料は農家で営んでいる実家の野菜を使いました。その中でも「ミニトマト」はメインのご飯に使うことで、主役にできたらなあと考えたようで、暑い夏場でもさっぱりしたイタリアントマトライスにしたそうです。日々、部活や勉強で忙しく、なかなか親子のコミュニケーションをとれなかつたのですが、この機会にとても良い経験をさせていただき、ありがとうございました。

反抗期ではあるものの、親子の会話は普段の倍になり、お弁当の話から「食」についての会話の世界は広がりました。部活終わりに級友を呼び、お弁当を担任の先生に届け、二度の審査をしていただき、食べてもらう喜び、おいしいと言われた嬉しさを感じられたようです。そして、家族の食事を管理する大切さ、毎日食事を出してくれる給食の先生の気苦労がよく分かっておりました。今後、作る楽しさを生かして、お手伝いしてくれたら嬉しいのが本音です。

正直、最終審査に選ばれると全く思っていなく、家族みんなで驚きました。娘も料理が得意と言い切れる程ではなく、自信はなかつたようです。しかし、何千点もの応募数の中から選ばれた光栄もあり、一生懸命、開催日まで練習し頑張ると決意し、出場を決めました。調理の練習を何度も繰り返し、工夫する点や順序など親子で話し合い、コンテストまで頑張りました。料理はあまり得意ではなかつた娘も、卵焼きを上手に焼けるようになり成長していく姿を見ることが出来、とても嬉しかつたです。また、飾り付けも、相馬地方の郷土色を出したいと、地元の歴史や民芸品に触れる機会ができ、とても良い機会となりました。コンテストに出場することで、大変でしたが、とても大切な事をたくさん得る事が出来ました。また、家族の絆がまた強くなつたと思います。

最終審査への出場が決まってから、制限時間に仕上げるとのことで練習を重ねて参りました。お弁当を作る度に、祖父母や家族、友人に試食をしてもらい、「美味しかつたよ。」と言われる度に、とても喜び、それがさらに調理することへの意欲になっていくことをとても嬉しく感じております。時には部活で疲れ切つた後に作ることもあり、その時と気持ちを込めて作った時の味の違いも本人が実感することができたようです。真心込めたお料理を、これを機に作つていつほしいと思います。

メニューを親子で考え楽しく調理する事が出来、また、最終審査が進むことが出来、大変嬉しい様子でしたが、時間内に調理できるか不安でいっぱいの様子でした。今回、何度も練習して努力した結果、出来るようになった過程を忘れず色々な事にチャレンジしていく子になって欲しいと思います。

